

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 024	提案機関名 自然環境保全センター
要望問題名 人工林における光環境・シカ生息状況・植生の関係の総合解析について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 現在、本県では森林整備とシカ管理の連携が進められており、事業とともに各種モニタリングが実施されている。これまでの調査結果から、光環境と植生の関係やシカ生息状況と植生の関係については考察されているが、今後、これらの総合的な解析（どの程度のシカ生息状況下でどの程度の光環境のときに、どのような植生回復となるか等）が必要となると考える。 長期間モニタリングを行っている場所の調査結果を解析し、森林整備とシカの連携に資するモデルとして整理していただきたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究企画部研究連携課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) シカ森林管理一体的推進手法の開発		
対応の内容等	衰退した植生の回復に影響する要因は、シカ密度、植物の種類構成、光環境、時間（植生遷移）など多岐にわたります。シカの個体数管理による植生回復が植生保護柵内と同様の過程を経る可否は不明です。なぜなら、柵を活用したこれまでの研究から、シカの強い影響が長期間持続すると回復しづらい植物種があるからです。 シカ保護管理計画を開始後10年以上が経過してモニタリングデータが蓄積してきたことから、そのデータを慎重に解析して、回復の目標像や指標、現状レベルを適切に評価する手法を今後検討していきます。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			